盛岡のスポーツ整形外科・和田院長

けがの選手に最新医療

「プロアマ問わず平等に」

けがで苦しむアスリートを最先端医療で支えようと、盛岡市向中野に「いわてスポーツ・整形外科クリニック」が5月に開業した。院長で同市出身の和田知樹さん(40)は、野球やサッカーなど様々なスポーツの経験を持ち、東京五輪にも携わった。和田さんは「みんなが笑顔でスポーツができる環境をつくりたい」と話している。(黒山幹太)

■選手に向き合う

開業からちょうど1か月が経過した今月7日。午後4時過ぎの院内には、野球やテニス、バスケットボールなど様々なスポーツ活動中にけがをした子どもと保護者が来院していた。

「痛みはどう？　投げられるようになった？」。診察室で和田さんと向き合っていたのは、少年野球チームで投手として活躍してきた横沢紅葉君(14)。横沢君は2月の練習中、右肘に違和感を覚えた。投球時に力が入らなくなり、後に痛みも出てきた。繰り返しボールを投げて肘に負荷がかかることで発症する「野球肘」だった。

大会に出られず、いつ治るのかわからない不安を抱きながら県内の整形外科を転々としていたが、5月から同院に通い始めた。衝撃波を患部に当てる最新設備での治療を受け、作業療法士から練習の方法についてもアドバイスを受けてきた。

「高校でも野球をがんばりたいので、早く治して練習に戻りたい」と話す横沢君に、和田さんは「体の使い方はだいぶ良くなってきたね。ケアしながらまた投げられるようになるよ」と声をかけていた。

■東京五輪転機に

自身も中学から大学まで野球に励み、今も運動が好きな和田さんは、大学病院などで勤務しながらスポーツ医学にも関わってきた。

転機になったのは、2021年に開かれた東京五輪だ。選手村内の「ポリクリニック」に勤務する整形外科医に選ばれ、診察にあたった。コロナ禍での五輪開催には賛否両論があったが、大会が始まると日本代表の選手が大活躍し、多くの人が応援する様子を目にした。

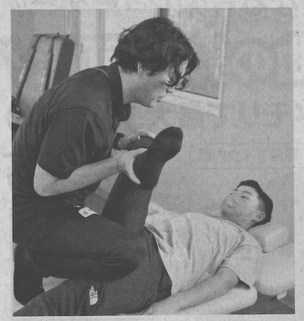
診察で接した100か国以上の選手から「エンジョイ、オリンピック！」と笑顔で声をかけられたことも印象的だった。「スポーツが世界の空気を変える。そういう仕事を自分もやりたい」との思いを強くした。

盛岡市での開業を決めたのは、県内ではスポーツを専門的に診察できる整形外科が珍しかったからだ。故郷でスポーツに関わる人を支えたいという思いを胸に、開業にこぎ着けた。

同院では整形外科での治療が必要な一般の患者はもちろん、衝撃波治療や再生医療など最先端の設備を導入してスポーツ選手を広く受け入れている。

プロアマ問わず、平等に患者と接するのがモットーだという和田さん。「普通の医師なら『じゃあ休んで』で終わってしまう。でも、自分は『いつまでにどうしたら復帰できるか』を一緒に考えたい」と力を込める。

「野球肘」の治療で通院する横沢君（左）に優しく話しかける和田さん（いずれも7日、盛岡市で）



野球経験のある作業療法士（左）がストレッチ方法を伝えてくれる

バレー独代表 紫波町を訪問

5日のバレーボール・ネーションズリーグで日本と熱戦を繰り広げた男子ドイツ代表チームが11日、紫波町役場を表敬訪問した。同チームは紫波町で合宿を行っており、フィリピンでの次戦に向けてリラックスした表情を見せていた。

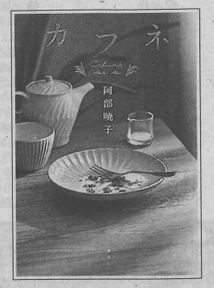
同町がスポーツを通じて地域活性化を目指す「バレーボールでつながるまちプロジェクト」の一環。この日選手たちが役場に現れると、職員は拍手で出迎え、大きな体格に驚きの声が上がった。熊谷泉町長が「紫波には肉もコメも酒もあります。ゆっくりしてください」と歓迎すると、選手たちは笑顔を見せた。

同チームは10～15日に滞在。合宿中は子どもたち向けの公開練習のほか、14、15日には日本代表Bチームとの国際親善試合を予定している。ミハウ・ヴィニャルスキ監督は「みんな笑顔で接してくれてありがたい。親善試合も酒も楽しみたい」と話していた。

バレーボール男子ドイツ代表選手と紫波町の関係者ら（11日、紫波町役場で）

書店員のおすすめ《郷土の本編》

さわや書店フェザン店店長　竹内　敦



カフネ

阿部暁子著　講談社　1870円（税込み）

弟の死が結ぶ出会い　感動作

岩手県在住の作家・阿部暁子さんの最新刊。青春小説で揺るぎない評判と人気を獲得している阿部さん。今回は大人に向けた感動作で、発売前には多くの書店員から絶賛された作品。これが著者のブレイクスルーになる予感がしています。

夫と不本意な離婚をして間もなく、愛する弟の謎の突然死という不幸の連続に襲われた野宮薫子。弟の遺書にしたがい、元恋人の小野寺せつなに会います。つっけんどんな態度をとるせつなと最初の出会いで反発しあい、話し合いは決裂。そのとき薫子は倒れ、せつなに的確に介抱されます。せつなの料理の腕は一級品で、自宅のありあわせの材料で作られた食事の優しい美味しさに思わず涙してしまいます。

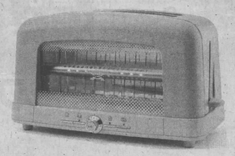
弟の元恋人の複雑な内面に興味を持ち、その後も理由をつけては会っているうちに、「カフネ」という家事代行会社の慈善事業に参加するようになります。社会的に恵まれない家庭でのボランティアを通して本来の自分を取り戻していくのですが、そのエピソード一つ一つが泣けるものでした。涙をこらえながら読みました。

一方で、せつなが作る料理がものすごく美味しそうで、目・鼻・口の全てから水分が出てぐじゃぐじゃな顔になって大変でした。弟の死の謎や2人の半生が明かされていくたびに驚きの連続で、感動から感動へのどんでん返しとも言える大傑作です。

プレゼント情報

◆「舟木一夫コンサート」に計20組40人を　アイエスから。7月10日午後2時、川越駅・ウェスタ川越。20日午後2時、相模大野駅・相模女子大学グリーンホール。歌手・舟木一夫＝写真＝の公演ペア招待券（1万7600円相当）。予定曲は「学園広場」「高校三年生」「銭形平次」など。未就学児不可。はがきに＜必要事項＞、希望日を明記、〒160・0004新宿区四谷3の7の7階、アイエス「舟木一夫」Y係。6月26日必着。03・3355・3553。

◆「アラジン　グラファイト　ポップアップトースター」を3人に　日本エー・アイ・シーから。0.2秒で発熱し、短時間かつ高温で焼き上げるポップアップトースター（幅40×奥行き21.5×高さ23.5㌢、税込み2万4400円）＝写真＝。1～7の焼き色調節つまみで、自分好みの焼き上がりに設定できる。冷凍した食パンを焼くモード、ベーグルなど上下二つに切ったパンを片面ずつ焼くモードなども搭載。前面にあるガラス窓から焼き色が見える。色はグリーン。はがきに＜必要事項＞を明記、〒675・2462加西市別所町395、日本エー・アイ・シーY係。26日消印まで。0120・88・3090。



▽＜必要事項＞とは〒住所、氏名、電話番号▽賞品の発送をもって当選発表に代えます。応募者には賞品提供元からダイレクトメールを差し上げることがあります。